

**大陽日酸、ベトナムジャパングス、ハノイ工科大学機械工学部、
大阪大学接合科学研究所(エネルギー制御学分野)
国際産学連携共同研究調印式典開催**

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業

接合科学研究所 特任准教授 勝又 美穂子(常勤)

2018年4月13日(金)に、大陽日酸、ベトナムジャパングス、ハノイ工科大学機械工学部、大阪大学接合科学研究所(エネルギー制御学分野)の4者による国際産学連携共同研究の調印式典が開催されました。

接合科学研究所は、2016年7月よりハノイ工科大学機械工学部溶接学科内にJWRIオフィスを設置し研究・交流活動を推進していますが、この度ベトナムにおける溶接・接合技術の強化と研究ニーズに応えるべく、兼ねてより強い連携のあった大陽日酸及びベトナムジャパングス、そしてハノイ工科大学溶接学科との連携による国際産学連携共同研究を開始するに至りました。

経済・産業発展が目覚ましいベトナムにおいて溶接・接合に係る『研究に裏打ちされた技術開発能力』の強化はこのタイミングで必須だと言えます。その意味において、本調印式典は在越日本大使館後援により日越外交関係樹立45周年記念の認定行事として開催されました。

調印式には、駐ベトナム社会主義共和国日本

国特命全権大使梅田邦夫大使、大陽日酸常務執行役員及びベトナムジャパングス社長矢菅治彦氏、大陽日酸執行役員佐藤豊幸氏、ベトナムジャパングスハノイ支店長泉靖則氏、当研究所副所長田中 学教授他、ハノイ工科大学からは副学長 Huynh Quyet Thang氏、国際部部長 Nguyen Phu Khanh氏、機械工学部長 Pham Van Hung氏、溶接学科長 Bui Van Hanh氏他が参加しました。式典では梅田大使より「日本国政府を代表して」と前置きされた後、溶接の重要性、同分野で世界屈指の当研究所の強力なサポートにより展開が待たれる今後の活動はベトナム産業の発展に大きく貢献すること、そして、今回の国際産学連携共同研究が、先駆的存在になるとして期待のお言葉を頂戴しました。

本活動を通し、ベトナムの溶接・接合に係る高度技術の醸成と産業発展への貢献は勿論、技術・品質の向上に邁進する在外日系企業への貢献にも大きな期待が寄せられます。

